

女性技術者応援企画・関西編

3人の女性技術者に聞く

ケース1



浪速育 松月 (大阪市・北区)
菓子研究団体大阪二六会副会長
藤原厚子さん

ケース3



喜久春 (京都・長岡京市)
南向由美子さん

ケース2



五條堂 (大阪・東大阪市)
柴田彩さん

「後継するつもりで、

私の場合」

女性技術者応援企画第二弾では、関西編として菓子研究団体大阪二六会(西尾智司会長)の協力を得て、活躍する女性三名のケースを紹介する。和菓子店に嫁いだケース一名、家業が和菓子店だったケース二名である。

三者三様の「私の場合」を紹介しながら女性技術者の実情も浮き彫りにしたい。
関連記事はカラー59ページ

番外編



本松葉屋 (大阪市・天王寺区)
菓子研究団体大阪二六会会長
西尾智司氏

二六会の西尾会長の話によると、某専門学校で菓子を専攻した学生のうち、八割は女性。これからの菓子業界も女性の活躍が目立つようになる。

三人の女性たちは嫁いだ先も含めて家業が菓子屋であるというベースがある。そこで自分を生かすも殺すも自分次第ということになるのだろう。さらに共通して言えることは、女性技術者が働き続けるには、周囲の理解とサポートがないと困難だとい

うことだった。今を前向きにハツラツと生きる三人の女性技術者たちには、先輩として今後とも後輩たちの良き道標として輝いてほしいと思う。

番外編として、西尾会長に今回の企画での三人の女性たちにコメントを頂いたので紹介する。また次ページでは、販売を担ってきた本松葉屋の松下雄一社長夫人である典子さんの興味深い「つぶやき」にも耳を傾けた。

三百名以上在籍する会員のうち、女性の割合は一七%です。女性は男性より力仕事の点では劣りますが、色使いを含めてその繊細な表現は、女性ならではのと言えるでしょう。今回の企画で登場した女性たちは、当会副会長でもある藤原厚子さんはもとより、柴田彩さん、南向由美子さん、それぞれがとても頼もしい存在です。

まずは藤原厚子さんですが、浪速育 松月と西洋和菓子SHOGETSUを運営していますので、和と洋の知識と技術を身につけています。講師として講習する和洋折衷の菓子は、商品開発の一助になります。二六会の幹部として若い会員たちとも積極的にコミュニケーションをとり、刺激を与えると同時に信頼関係を築き、ファンも多くなります。

年々当会にも専門学校からの卒業生など女性参加者が増えていきますし、藤原さんは時代の流れに即応した技術者を育成する先生として適任であり、今後ますますの活躍が期待されます。和菓子を愛する気持ちでは、誰にも負けない情熱を抱いている女性です。

柴田彩さんは、女性ならではの

西尾会長からのコメント

たおやかな感性で、時代の流れの中で常に挑戦することを忘れない、まさにチャレンジャーです。当会主催の講習会や役員会、総会などでは常に先を読み、率先して動いてくれます。フットワークが軽くよく気がつきます。最近では女性技術者としてテレビでも紹介され、聡明で度胸もあることなどから、全国区で活躍できる人材と言えるでしょう。常に笑顔で接し、会員同士の絆を深めるムードメーカー的存在でもあります。

南向由美子さんは、温かな性格ですが、技術を練磨する努力は惜しまず、実に熱心に取り組めます。繊細な技術を要する生菓子、工芸菓子などに物怖じせず挑戦します。そうした菓子に取り組む姿勢は、今後の女性技術者が成長する過程において見本となるでしょう。

美味しいものを作ろうとする真摯な姿勢は、手間隙を惜しまず取り組むことでも分かります。それが、家業においてお菓子の一つひとつの美味しさに繋がり、接客にも滲みでて、お客様に満足感を与えているのでしょう。

美味しさ、美しさ、楽しさ、夢を売る喜久春の評判は、彼女の好感度大の笑顔から容易に想像できます。